

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成24年8月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600087&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を入居者様とスタッフの会話も多く笑顔のたえないホームです。家という部分を大切に、共に喜んだり、時には共に悲しんだりとホームがひとつの家族の様な関係作りを目指しています。医療機関や訪問看護と連携し、日々の健康管理や見取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域とのつながりも大切にしながら、入居者様が安心して過ごせる様に、またご家族様にも安心・信頼していただけるようなホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市内の閑静な新興住宅地の中にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には遊歩道や広い公園、幼稚園などがあり、散歩や外気浴、畑作業を楽しむ自然環境に恵まれている。事業所内は清潔で明るく、居間と食堂が一体的で広く、スタッフのスペースからも全体が見やすく配置されている。エレベーターやスプリンクラー、広めのトイレなど設備の面も整っており、親しみやすい飾り付けがなされている。近所の幼稚園やボランティアの方と活発に交流し、楽しく生活している。市の緊急雇用創出事業を活用したり、グループホーム連絡会に参加し、市との情報交換を密に行っている。職員はみな明るく活気があり、利用者と家族のように接している。職員同士のコミュニケーションも良く、家族との信頼関係も築かれている。外出支援の面では、買い物や個別の希望に沿った外出、外食やキャンプなど、楽しめるように様々な工夫をしている。終末期におけるホームのできるかぎりの対応や、希望に沿った入浴支援など、利用者一人ひとりの意向や希望を尊重したサービスが提供されている。新たに作成したケア理念を意識しながら、安心と信頼、家庭的な環境づくりを重視した運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほほえみ独自のケア理念を作り、実践につなげている。	3項目からなる基本理念があり、その中で「地域と共に歩むホーム」という内容を入れ、地域密着型の理念として確立している。また、職員が話し合って事業所独自のケア理念を作り上げ、共有し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣幼稚園との交流や、地域のボランティアの方々との交流を図っている。	町内会や近くの神社のお祭りに利用者と共に参加している。近くに幼稚園があり、運動会見学やすいかの差し入れ、子供の写真のプレゼントなどの交流を行っている。そば打ちや合唱団などのボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部評価の結果公表やホーム通信、運営推進会議等を通して、認知症の理解や支援に結びつくよう情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、情報提供や情報交換を行っている。また、そこで出た意見等はスタッフミーティングで話し合うなどして、サービス向上につなげている。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員などの参加を得ているが家族の参加は少ない。理念や行事、外部評価、ボランティアの利用などのテーマで意見交換している。	利用者家族に運営推進会議を案内し、参加していただけるよう、さらなる呼びかけを期待したい。また参加が難しい場合も、案内の際に事前に意見を収集したり、会議の議事録を送付するなどの働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修等を通して、情報交換をし協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ており、市のグループホーム連絡会でも行政担当者と情報交換している。市の緊急雇用創出事業を事業所として利用しており、緊密に連絡を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に積極的に参加し、ミーティングの場で話し合いをしながら、正しく理解するよう取り組んでいる。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為が明示されたマニュアルを整備している。職員も外部研修を受講して、報告会を行い、理解を深めている。玄関は日中は施錠せず自由に入出することができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に積極的に参加し、虐待が見過ごされることのない様に、スタッフ間で情報を共有しながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を設けていきたい。今年度中にホーム内での研修会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を解消できる様、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを大事にし、面会時に、意見や要望を聞いたり面会簿に記入できる様に取り組んでいる。苦情箱の設置。	家族には来訪の際や計画見直しの際に意見を聞き、内容を記録して共有している。また、単票形式の面会簿にも意見欄を設けている。退去時にもアンケートを依頼し、率直な意見を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。実行可能な意見・要望については、反映させている。また、年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月1回の全体会議とユニット会議があり、職員が活発に意見交換している。個別面談も実施している。職員は行事や園芸、お便り作成などの役割を順番で分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるよう、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設け、個々の努力、実績、勤務状況等を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修の他に、外部研修にも積極的に参加できる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修会の場を通して、同業者との交流ができる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の要望、不安等にいつでも耳を傾け、把握し安心していただける様な、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有ができるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様と相談しながら、個々の状態を良く観察し、必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、入居者様を人生の先輩と敬い、会話やコミュニケーションを大切に、家族という思いで感情を共有できるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報交換や、情報の共有をし、共に支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人や友人がらい来所した際などは、スタッフも交えて会話を楽しんだりしている。また、入居者様から、知人、友人を訪ねる時などの支援をしている。	知人や友人が来訪するほか、利用者の知人宅への送迎も支援している。また、電話や手紙のやり取りも支援している。料理の好きな利用者や精肉店に行ったり、馴染みの時計店に電池交換に行くなど、利用者毎のこだわりの場所への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの状態、性格を把握し、入居者様同士の関係を見極めながら、支援に努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援ではないが、一部のご家族様とは関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、個々の希望・意向の把握に努めている。入居者様の発信するサイン等を見逃さず、スタッフ同士、ご家族様と情報を共有している。	言葉で把握できない場合も、表情やしぐさから希望を把握している。利用者ごとにアセスメントシートや入居者情報要約表を作成し、追加記入や見直しを行い、情報を蓄積、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや本人、ご家族様からの情報を基に、アセスメントシートを使いスタッフ間で経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を利用し、健康チェックを通して生活のリズムや心身の状態を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見、要望を取り入れながら現状に合った介護計画を作成するように努めている。また、適切なケアが出来ているか1ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	介護計画は3か月の期間で見直ししている。毎月のモニタリングを元に意見集約し、評価を行った上で、次の介護計画が作成されている。片方のユニットは、今後、介護計画との関連付けを行いながら日々の記録を行う予定としている。	両方のユニットが介護計画を意識した日々の記録を行うよう期待したい。また、介護計画への署名者(家族、本人)の正確性の確保も期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記入し、スタッフ間での情報共有や介護計画の作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、ご家族様の状況に合わせ話し合いの場を設けたり、さまざまなニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りへの参加、近隣幼稚園との交流、買い物等を通して、暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による、月1~2回の往診の他に緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられるように支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関への受診の支援も行っている。	協力医療機関による月2回の往診を受けており、その他のかかりつけ医への通院も概ねホームで受診支援している。受診内容を記録し必要に応じて家族に報告している。	

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様が適切な受診や、看護が受けられる様、訪問看護師と契約をしていて、24時間連絡可能な体制になっている。定期的に情報提供をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療ができるよう、情報提供を行い、早期に退院できるよう情報交換、相談を病院関係者と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、看取り介護についての説明を行っていて、看取りと判断した場合は、ご家族様、主治医、訪問看護師と連携し、情報を共有しスタッフ全員で取り組んでいる。	利用開始時に重度化した場合の対応指針を説明し、同意書を取り交わしている。訪問看護で対応可能な範囲で看取りを行う方針であり、過去にも複数の看取りの経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルをスタッフ全員で把握し、急変時や事故発生時に備えている。2年に1度救命救急講習を受講し、実践力が身につくよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼と夜間の避難方法の確認をしている。地域の方にも参加していただいている。	年2回、消防署や町内会の方の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施しており、職員の救急救命訓練も定期的に行われている。一方、災害時に必要な備品の準備は今後の課題である。	災害時に必要と考えられる水や食料などの備品についてチェックリストを作成し、準備し、管理されることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた、言葉かけやタイミング、声の大きさ等状況に合わせた丁寧な、対応を心がけている。	大きな声で言葉かけをしている時には、その場で管理者やホーム長が注意をしている。個人ファイルの棚に布を掛けたり、記録中に席を立つ時にはファイルを伏せるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を上手く引き出せるよう、日常生活の中でコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人の希望に添った1日を過ごせるよう、一人ひとりのペースに合わせて、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう、衣服等は自分で選んで着ている。定期的に訪問理容を利用し、身だしなみに気をつけている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の負担にならない様に配慮しながら、調理の手伝いや、後片づけをスタッフと共に行っている。入居者様の意見を取り入れ、献立を変更することもある。	献立と食材の配達は、業者に依頼しているが誕生日や行事などがある時は、食材の買出しに出かけたり畑の野菜を調理している。調理が得意な利用者には、魚をさばいてもらったり食材の利用法のアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し必要に応じて、声かけも行っている。入居者様によっては、トロミをつける等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄などで、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に考えて支援を行っているが、本人の力や状況に合わせて紙パンツやポータブルトイレで対応する場合もある。	水分量と排便、排尿の回数を24時間チェックすることで、日中は全利用者がトイレで排泄できるよう助している。夜間は、職員が1名になるため家族の了解を得ておむつやポータブルトイレを使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて服薬の使用や、腹部マッサージなどを行っている。また、食物繊維や乳製品の摂取などで、予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に注意しながら、本人の希望を取り入れながら、入浴を楽しんでいる。	入浴の時間や曜日は決めず、希望があればいつでも入浴できる体制を整えている。一人で1時間ほど入浴している利用者もいるのでその都度、安全確認のため言葉をかけ、様子をみながら入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、日中の過ごし方にも配慮し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態に合わせて、処方された薬をスタッフ管理の元、用法・用量を守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や趣味をそれぞれが楽しめる様、支援している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外食等、外出の支援を行っている。また、ご家族様の協力を得ながら、外出するなどの支援をしている。	日常的には、近隣の舗装道路を散歩したり買物に出かけている。車いすで移動している利用者は玄関などで外気浴をしている。冬季は外出が難しく運動量が減るため、大型スーパーに出かけ店舗内を歩いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から、希望があった時は、買い物に同行するなど、お金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から制限されている場合を除き、本人の希望通り、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様やご家族様、スタッフが作成した作品や、写真、季節の花を飾るなどの工夫をしている。また、季節に合わせて、加湿器、扇風機などを使用して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居間は、4か所の窓から明るい自然光が入っている。住宅街に立地しているので新築工事中国家屋の様子や遊歩道をジョギングしている人、公園で遊んでいる子どもたちの歓声が聞こえてくる。テレビの周りにソファを配し、食後はのんびりと過ごせる空間となっている。芋掘りなどの写真を掲示し、その時々楽しみごとを想起できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、新聞を見たり、それぞれが思い思いに過ごせる様、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で、馴染みの家具を使用する等、落ち着いた空間を作れるよう、ご家族様と相談しながら、工夫している。	風通しを良くするため居室の戸を開けているので各居室には、個別ののれんを掛けている。孫の写真や好きな歌手のポスター、応援している野球チームの写真など一人ひとりの生活史を反映する居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることはしてもらい、出来ないこと、分からないことは支援し、安全に自立した生活が送れるよう、取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成24年8月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600087&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年8月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほほえみ独自の理念を作成し、ホールに掲げ実践できるよう、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣幼稚園との交流、お祭りへの参加を通して交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部評価の結果公表やホーム通信、運営推進会議を通して、認知症の理解や支援に結びつくよう情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、情報提供や情報交換を行っている。また、そこで出た意見等はスタッフミーティングで話し合うなどして、サービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修等を通して、情報交換し協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に積極的に参加し、ミーティングの場で話し合いながら、正しく理解するよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に積極的に参加し、学ぶ機会を設けている。また、虐待が見過ごされることのないよう、常に話し合いの場を設け、スタッフ間で情報の共有に努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見人を利用している入居者様が居るので、勉強させていただいてる。今年度中にホーム内で研修会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を解消できるよう、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを大事にし面会時に、意見や要望を聞いたり、面会簿に記入できる様取り組んでいる。退居時のアンケートも行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。実行可能な意見・要望については反映させている。また、年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるよう、資格習得の為に休暇や手当等の制度を設け、個々の努力、実績、勤務状況等を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修の他に、外部研修にも積極的に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に、研修会の場を通して、同業者との交流ができる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談を通して、本人のニーズの把握に努め、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から、十分お話しを聞き不安が取り除かれるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様と相談をし、アセスメントを十分行ない、必要な支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを重視し、家族という思いで、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換やコミュニケーションを重視し、共に支えているという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所などへの支援は行っているが、入居者様によっては、家族の問題や入居前の問題があり、支援できていない場合もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活環境や人となりを理解し、支援に努めている。難しい場合は、スタッフが間に入り関わることもある。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後、必要に応じて相談、支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、希望、意向の把握に努めている。スタッフ間で情報を共有しながら、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からの情報収集やフェースシートの活用、入居前の担当者と連絡を取るなどで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を活用し、健康チェックの他、本人の様子を観察し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見を反映させながら、介護計画を作成するよう努めている。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、変更があれば、その都度ご家族様に報告・相談をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングで、見直しやスタッフ間の情報交換、意見交換を行い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に合わせ、話し合いの場を持ち、その都度ニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流、買い物、ボランティアの活用等を地域資源と考え、支援してあげる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による、月1回～2回の往診の他に緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関への受診の支援も行っている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様が適切な受診や看護が受けられるよう、訪問看護師と契約をしていて、24時間連絡可能な体制になっている。定期的に情報提供を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療ができるよう、情報提供を行い、早期に退院できるよう情報交換、相談を病院関係者と行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、看取り介護についての説明を行っていて、看取りと判断した場合は、ご家族様、主治医、訪問看護師と連携し、情報を共有しスタッフ全員で取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルをスタッフ全員で把握し、急変時や事故発生時に備えている。2年に一度救命救急講習を受講し、実践力が身につくよう努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼間と夜間の避難方法の確認をしている。町内会の方にも参加していただき、協力体制を築いている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた、声かけや対応を行えるよう、声かけのタイミング、声の大きさ、まわりの状況に注意しながら支援している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを心がけ、本人の希望を引き出せる様、働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様一人ひとりのペースで過ごせる様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれに関しては、本人の自由でできるよう支援している。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いや片付けを、スタッフと共に行っている。希望にあわせ、献立の変更も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、少ない時は本人が好む物を摂取できるよう、声掛けを行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯洗浄、訪問歯科の口腔ケアの利用やアドバイス等により、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。また、みがき残しの際は、一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とした支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排泄パターンを把握し、食物繊維や乳製品の摂取などで、予防にも取り組んでいる。必要に応じて、服薬を利用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めていなく、本人の希望を優先しながら入浴を楽しんでいただいている。入浴が嫌いな入居者様については、こちらから、声かけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間はばらばらで、それぞれのペースで、テレビを見たり、ホールで過ごしたりと、寝る時間は本人の意思に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態に合わせて、処方された薬をスタッフ管理のもと、用法・用量を理解し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、役割を持っていただけるよう支援している。嗜好品に関しても、好みに合わせて楽しめるよう支援している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等は、体調や天気をみながら随時行っている。年に数回は、キャンプや釣りなどの支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望があった時は、買い物や外食に同行し、お金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から制限されている場合を除き、本人の希望に合わせて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の写真や、季節の花を飾るなど季節感を取り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、加湿器や扇風機などを使用し、気持ちよく過ごせるよう工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、いつでもテレビを見たり、新聞や雑誌を見たりできる環境を作っている。スタッフルーム前には椅子を置き、気軽に会話ができるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内では、タンスや飾り物など馴染みの物を使用することで、落ち着いた環境を作れるよう、ご家族様と相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況を見極め、安全が確保できるように、廊下に鏡を設置するなどの工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 24年 9月 16日

市町村受理日：平成 24年 9月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者家族に運営推進会議を案内し、参加していただけるよう、さらなる呼びかけを期待したい。また、参加が難しい場合も、案内の際に事前に意見を収集したり、会議の議事録を送付するなどの働きかけを期待したい。	家族の運営推進会議への参加や、意見を収集する等の取り組みを行っていく。	議事録の送付と、運営推進会議の案内を送付し事前の意見収集につなげていきたい。	即実施
2	26	両方のユニットが介護計画を意識した日々の記録を行うよう期待したい。また、介護計画への署名者(家族、本人)の正確性の確保も期待したい。	介護計画と連動した、介護記録を書くように取り組んでいく。介護計画の署名欄を正確に記入してもらう。	介護計画と日々の介護記録用紙をひとつにし、常に介護計画を意識しながら、記録書きを行っている。介護計画の署名者欄を正確に記入してもらう様、用紙を一部変更する。	即実施
3	35	災害時に必要と考えられる水や食料などの備品についてチェックリストを作成し、準備し、管理されることを期待したい。	災害時の、水・食料等の準備をする。	水・食料等、ホームの状況に合わせて準備していく。チェックリストを作り管理していく。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。